【議事】定 45

⑴ 平成 19 年度宇宙開発関係経費について

資料 46-1-1（政府の宇宙予算）を文科省の池原参事官が説明し、資料 46-1-2（文科省の宇宙予算）を文科省の奈良課長が説明した。その後、森口局長が下記の補足説明をし、質疑応答が行われた。

森口：自民党への説明のときに指摘されたことであるが、「文科省はプラスであったが、各省はマイナス。宇宙の重要性を浸透させるように」との要請があった。文科省の宇宙予算は科学振興費の中の一つである。科学振興費も伸びたが宇宙は平均を上回って伸ばすことができた。科学振興費の増額の 1/4 が宇宙に配分されたことになる。

井口：GX ロケットについて議論になり、紛糾したと聞いているが。

奈良：近いうちに結論が出ると聞いている。

青江：地球観測衛星、災害監視は大切な分野である。GCOM の後の見通しは如何か。

奈良：立てた計画を後ずらしさせないように取り組んでいる。今のところそれが達成できており、その後の計画も検討中で、同じように達成させたいと考えている。

青江：1 点は理解した。もう一点は、大学共同機関の周辺の方に、予算に対する不安の声が大きいことである。不安が不信にならないよう、しっかりと取り組んで欲しい。

奈良：宇宙科学分野の予算は減額であるが、昨年度二つの計画が並行で進められたことの影響が大きい。今後のことは、新しい計画がはっきりできていれば交渉し易い。

⑵ H-ⅡA ロケット 12 号機の打上げについて

JAXA の河内山理事が資料 46-2（H-ⅡA＃12 打上げ）を説明した後、下記の短いやり取りがあった。

井口：毎回同じことを言って申し訳ないが、失敗の無いようによろしくお願いする。

JAXA 河内山：確実にやって行きたいと考えている。

⑶ その他

「その他」に進む前に、井口委員長の退任挨拶と、松尾委員長代理の送辞があった。

井口：H-ⅡAの11号機打上げが成功していなかったら、この日をこのように安心して迎えられなかった。河内山さん始め、皆さんのお陰と感謝している。アンテナを今夜開く予定で、此処まで終わらないと喜びも半分であるが、今夜しっかり見届けたいと思っている。

平成3年に回付総理の辞令で、調査委員会の委員になったのが、宇宙との付き合いのはじめであった。その後、平成6年の「きく6号」から、報告書を書き終わる前に次の事故が起こるという時代を経験した。平成13年に結城さんから委員長職を打診され、ワンポイントと思って引き受けた。委員長として「失敗を無くせ」と云うことに心を配って取り組んできた。今まで経験した事故では、全てポカミスが原因であったと言える。わが国の技術が低いために起こった事故はなかった。H-ⅡA初号機が委員長としての初仕事で、無事成功させることができた。

その後、15年冬の6号機の失敗があり、衛星2基の運用停止が発生した。H-ⅡA 6号機はSRBのエロージョンを軽く見ていたための失敗であった。「みどり」では太陽電池パドルにフレキシブルなものが使われていた。これは前にもトラブルを経験した難しいものであり、パドルを2本にするように要請したが、「もう出来上がっている。」と云うことでそのままやってしまった。

その後、安全に対する取り組みを強化し、連続で打ち上げに成功していることは、此処にいらっしゃる河内山さん始め、皆さんの努力のおかげであり、幸せに思っている。

ソフトウェアの世界ではバグと言っているが、ロケットや衛星にもバグが居ると思っている。事前チェックをしっかりやっていることで、虫が死んでいる。しかし、これを長く維持することは大変なことである。気を緩めると虫が息を吹き返す。皆さんには、害虫駆除方式を確立し、緊張をし続けなくても虫を殺せるようにしていただきたい。この考えが浸透してきていることは感じているので、是非続けて欲しい。

任期を全うできたことは皆さんのお陰である。お礼申し上げる。それとともに、宇宙の発展を祈念する。

松尾：平成13年1月、文科省誕生最初の委員長である。就任直後から「目標と方向性」に取り組み、平成15年には「長期的計画」のまとめをなさった。不具合撲滅に尽力され、「みどり」「のぞみ」の不具合原因究明にもご尽力なさった。こういった貢献のお陰により、平成17年のH-ⅡA7号機から、8機連続の成功というよう実りが得られた。

「基本設計にまでさかのぼった点検」「大型衛星から中小型衛星への転換」といった取り組みを引張ってこられ、また、語録も残されている。「自動車と鉄道にできて、宇宙にできない筈がない。」が特に印象強いものである。

これからもご多忙な生活を続けられることと思うが、健康に留意されたい。ありがとうございました。